

パート2

坂井 照子

お母さんパワー、とても楽しかった。そして感動しました。舞台にあがり、オーケストラをバックに歌を声はりあげて体からうたえた事、うれしかったです。荘厳な讃美歌の後いよいよソロでの一声をきちんと大きく出させるかしら・・・久々にドキドキしました。毎日洗濯物を干しながらテープに合わせ、自分のパートを練習しました。他のパートと合わせ、ピンピンとした響きが聞こえ、ハマった時には、思わずヤッターと一人で声を出していました。歌もおどりの本当に大好きで楽しいです。この様な機会を得られることを心より幸せに思います。

盛生 桂子

今回のコンサートでは音符もろくに読めない、私達親子がオーケストラをバックにソロで歌うなんて夢のような事でした。私は仕事の移動の時、自転車で走りながら歌ったり台所、浴室などで何時もいつも口ずさんでは練習をしました。また学校の練習時、入れ歯がゆるんで落ちそうになり加減して小さな声でモゴモゴ歌ったりして、とても不安でしたので、歯医者さんに行ってしっかりと固定してもらい本番に臨みました。本番には安心して大きな声で歌う事が出来ました。親子共に大成功と自負しております。12年の軌跡は私達親子にも奇跡をうみました。この軌跡を宝物として大切に素晴らしい女優を目指し前進して行きたいと思っています。



清水 恵美子

今回の公演で初めてソロを歌うことになって、まず考えた事は歌詞を間違えないように音程を正しく歌うことでした。ところが、広井先生から指摘されたことは「声が小さい」でした。今までソロを歌う人に対して声量があるのは私とは別格の人達で当然と思っていました。でもその理屈は私だけのもの。聴く人にとってはそんな理屈は関係ないのですよね。大きな声で歌うように心掛けて練習すること。それこそ初めてのことでした。夢中で練習していてハッと気がつきました。我が家は野中の一軒家ではないということ。前後左右のお隣さん、さぞ、迷惑だったのではないのでしょうか。それで練習場所を車の中に変えました。時折信号待ちで隣の車の視線を感じましたが「旅の恥はかき捨て」とばかり気にせず、勿論車の運転には細心の注意を払ってはいましたけれど。被害者は志保子ひとりです。練習の成果は・・・というあまり効果はなかったように感じます。遠くに届くように歌うことは単に大きな声を出せばいいということではないのかも知れません。声の出し方をちゃんと習ってみたいと思いました。とにもかくにもオーケストラと一緒に舞台上で歌を歌う、それもソロで、という最高にせいたく経験させていただき、素敵な思い出を作ることが出来ました。若竹ミュージカルの一員でいられる事を幸せに思い皆様へ感謝です。

津田 淳子

「愛ちゃんママ、台詞覚えた？」とミュージカルのメンバーに聞かれるたびに「覚えている」と思っている気持ちがゆらぎ、何となく不安になりました。本番になり胸が高なり、凄く緊張しましたが、歌い出してみると不思議に落ち着いてきて、何とか役目を果たすことが出来たと思ひほっとしました。旧友から「おなみ(学校時代からのニックネーム) 声楽をやったことあった？」と妙な感心をされました。また、とても素晴らしかった「感激して涙がとまらなかった」と同級生とその友人等、多くの方から率直な励ましの言葉を寄せられました。

河西 正子

オケの伴奏でソロ！ ぜん息が出ないように、おしゃべりするように、大きな声で・・・等々でドキドキでした。歌い終わった時はホッとして、今になって感動が夢の様な場面と共によみ返っています。それにしてもほんの短いものなのに、なんて難しいと思いました。堂々と歌っている卒業生のみなさんは本当に立派です。家事をしながらの練習では、台所の仕事で思わず声が出てしまい家族から「どうしたの？」と変に思われたり、ウォーキングでも美保子と二人、大声で歌いながら小田の道を歩いたりしました。親子で初体験の今回の公演は特に心に残りそうです。